

灰

色

はいいろきよじん

HAIROKYOJIN

HAIROKYOJIN

巨

人

SUGINAKA MOMOKO





あるくもりぞらのひ、ふとそらを見あげたとき、ぼくはいいろきょじんとであった。



はいいろきょじんはすごくおおきくて、みためはこわいけど、とてもやさしくてしんせつなきょじんだった。





でも、ぼくはさいしょびっくりして、こわくてうごけなくなりました。



でも、ぼくがなくなってしまわないかとおろおろしているはいろいろきょじんをみていたら、なんだかおかしくなってしまうって、きがついたらぼくはわらっていた。





それからぼくらは、いろいろななしをした。ぼくがいろいろきょじんのかたにのって、ふたりでまちをあるいたんだ。



でもふしぎなことに、だれもはいろきょじんにきがつかなかったんだ。





まちのひとたちはみんなしたをむいて、いそがしそうにあるくもんだから、ぜんぜんはいろいろきょじんに  
きが見つからないんだ。



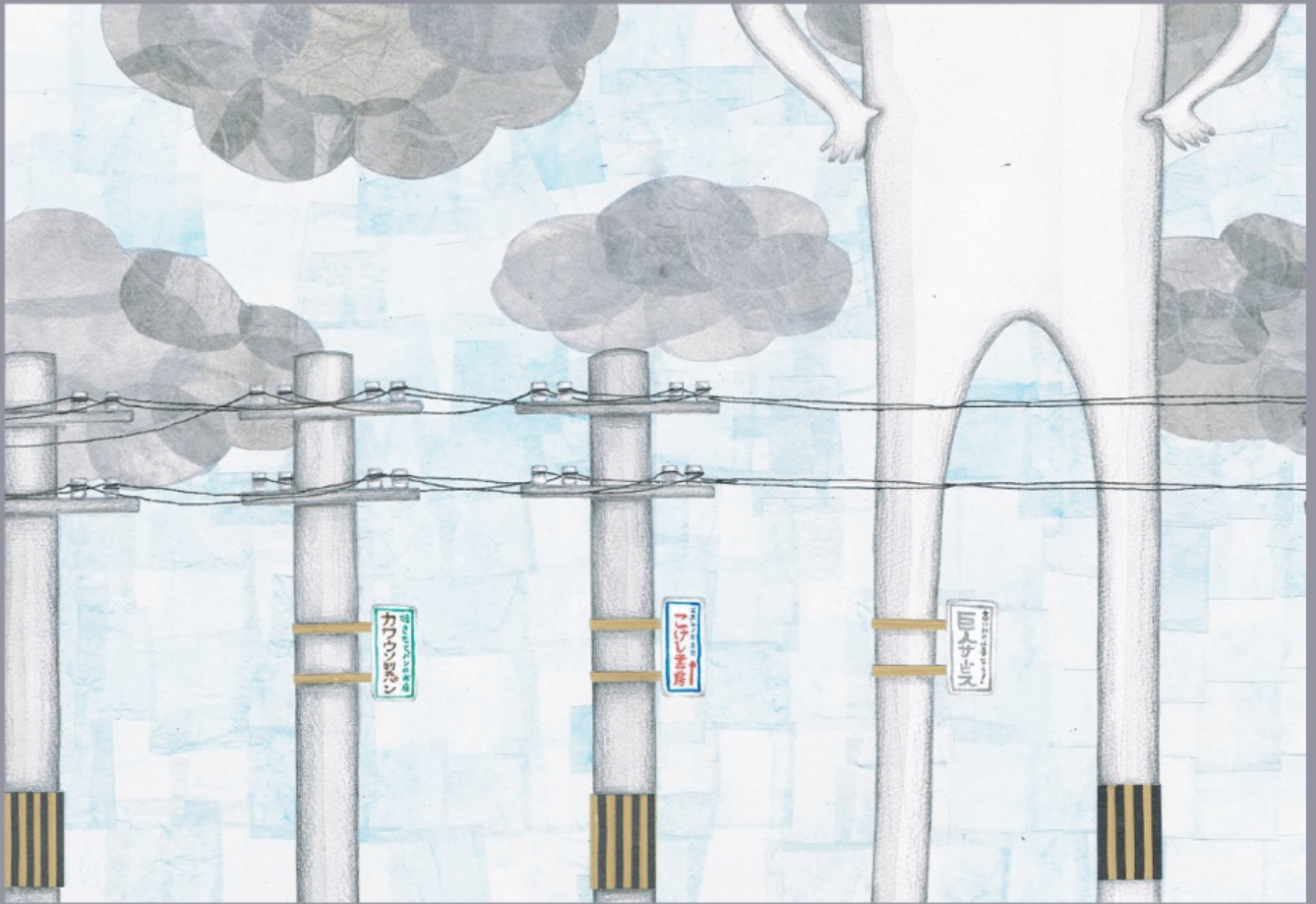


はいろきょじんはいつもはやまのおくの、人がいないしずかなところにいて、くもりのひになるとまちにあそびにくるんだって。



みんなくもりのひのそらなんてみあげないから、はいいろきょじんがまちにまぎれるにはくもりのひがぴったり。  
あめのひはだめなの？ってはいいろきょじんにきいたら、  
「あめのひはやまのどうぶつたちがぼくのおおきなかさのしたであまやどりをするからおおいそがしさ。」だって。





はいろきょじんは、でんちゅうのふりをするのがとってもじょうず。これならぼくもぜったいきがつかない!



ぼくたちは、くもりのひはなんだかどんよりしたきぶんになっちゃうけど、はいいろきょじんたちはくもりになると  
およろこびなんだって！はいいろきょじんたちは、まちにあそびに行くのがだいすきなんだ。





はいろきょじんのかたのうえからみるまちは、なんだかちいさくておもちゃみたい。いつもみるまちよりたのしそうにみえた。



よるになって、ぼくたちはおわかれをした。そのひはたくさんほしがでていて、「あしたは、はれか。」と  
はいいろきょじんはすこしがっかりしていた。





よるのやみにまぎれて、はいいろきょじんはなかまたちともりへかえていった。おもっていたよりはいいろきょじんはたくさんいて、ぼくはすこしおどろいた。



つぎのくもりのひも、そのつぎのくもりのひも。ぼくはいいろきょじんをさがしたけれど、はいいろきょじんにあえることはなかった。でも、あのひからぼくはくもりのひがすこしたのしみになったんだ。くもりぞらのひ、ぐるっとそらを見あげてごらん。きみも、はいいろきょじんにであえるかもしれないよ。